

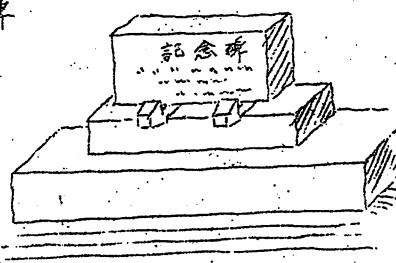
護の守札が神棚に奉納され、神も飾付けられていて、神聖な厳肅な気分に浸りました。

## 郷土碑文巡り(五)

## 一本松之上水道完成記念碑

会員 山本 保

国道二一七号線沿いの一木松バス停留所の近くには、佐伯市水道第一水源地があり、次のような記念碑が建立されています。



記念碑

第4期上水道拡張事業完成

昭和49年8月

佐伯市長池田利明

碑面の文字(南側)

裏面(北側)	大入島西上浦難 1971-1974 7億円
久保建設株式会社 谷川建設株式会社 佐伯建設工事 有限会社佐伯水道工事 有限会社荒牧用	久保建設株式会社 谷川建設株式会社 佐伯建設工事 有限会社佐伯水道工事 有限会社荒牧用

佐伯市水道  
完成記念碑

記念碑の横に並んで、小さな祠へ神をまつた小さな石祠。  
も併々宇太水分神社、上水道保全、水資源確保、御守

ります。

事業所内及び、大型中央監視盤の計器が備えつけられ、配水池水位、積算指示数、取水量、配水量、電力使用量など、数字が表示されるコンピューターワードの導入には、驚きました。近代科学の輝きを窺っているといつても過言ではありません。

堅牢な建造物以外で、立ち入り禁止、確認、危険物、高圧危険、塩素滅菌室等の赤い文字板が目にに入ります。

このように、水道課職員(四十四名余)の方々が、目次及見えない陰の力、いわゆる権力下の力を使って、五万市民は、自由に、ふんだんに水の恩恵にあずかっています。

また、国道二一七号線沿いの上岡地区一帯には、第二、第三、第四、第五の水源取水井が点在し、新五川橋界橋付近に、第六、第七水源池施設が整備されています。

昔から、中村方面(中村耕地)現在常盤東・西・南町、中村東・西・南・北町)は飲料水不足しく、私設組合水道は頗っていましたが、大正五年日豐本線の開通に従い急速に市街化が進み、飲料水不足はひどくなり、上水道敷設が望まれていました。

時代は、昭和へと移り、海軍艦隊の佐伯湾寄港、佐伯海軍航空隊、海軍防備隊の設置等で、所は発展し、上水

道の必要性がますます痛感されてきました。

昭和五年町会議員の中洋市水道施設の見学、大分市水道課長の来佐、昭和六年大分市水道部長の来佐、水源池調査とすすめ、いよいよ昭和七年四月六日の町会で、二年継続の上水道工事施工が、満場一致で議決されました。給水人口二万人を目標に、水源地を鶴岡村土屋屋へ現在上岡又一本松一帯求め、配水池を城山へ西谷又松谷に置き、昭和八年八月二十一日通水を開始しました。その祝賀式は、佐伯小学校の校庭で花々しく挙行されました。

水源池から淨水場に導かれた水を、配水池から需用家庭に送水する、待望の都市上水道が完成しました。町内鉄管敷設総延長二万八千メートル、防火栓百二十二個、総工費二十三万円。

町民は、火災、伝染病の恐ろしさから、やへと開放されました。

昭和十年には、佐伯東尋常小学校が創立されると、いわゆる佐伯東地又は膨張し、引続き太平洋戦争、敗戦、そして戦後の混亂期も終わり、産業都市へと転換した佐伯市にとっては、韓国人締ベルフ佐伯工場建設は朝報であります。そのため上水道の拡張・普及は、緊急な課題となりました。

上水道敷設工事沿革		新設工事	施工期	工費	概要
工事名	施工期				
第一期拡張工事	"二八一三〇"	九五六六	二三五五	第一配水地(西谷・城山利用)	田舎軍給水施設整備
第二期拡張工事	"三九一四三"	一二一九七	第三配水地(中野・城山利用)	野岡山(現海灘霞山公園)	四号井戸新設(上岡)
第三期拡張工事	"四四一四六"	六一三五	四号井戸新設(上岡)	第三配水池(坂ノ浦崎)	第四期拡張工事
"四六一四八"	六八〇〇〇	第六一四八	第六一四八	第六一四八	二カ所外に、戸穴にハ管配水場、波越に堅田上水場が設けられています。

昭和八年以来、四十五年余の歳月が流れましたが、今入間水源取水井八ヶ所、配水池六ヶ所、淨水池二ヶ所へ設備投資は、ばく大な額にのぼり、その維持管理も大変なことだと思っています。

現在の佐伯市上水道の給水能力は、左の通りです。

一日最大給水量	一日平均給水量	一日平均需水量
三三、五九〇m <sup>3</sup>	二九、一五〇m <sup>3</sup>	五三〇m <sup>3</sup>
六一〇m <sup>3</sup>	二九、一五〇m <sup>3</sup>	五三〇m <sup>3</sup>
五五、〇〇〇人	五五、〇〇〇人	五五、〇〇〇人

佐伯広域市町村圏域には、一級河川番丘川水系に属する、その他たくさんの中小河川と、豊富な地下水があり、一方、年間降雨量は一五〇〇mm(二〇〇〇mm)で、水资源には恵まれています。

昭和四十八年四月、離島のため水不足に悩んでいた大入島にも、野岡山給水施設を利用し、海底に送水管を敷設する工事で、大入島全島への配水が完了しました。これらを、まとめたのが次の表です。

しかし、生活用水(家庭用)・農業用水・工業用水等の需要は、ますます増大することが予想され、水资源の確保は、今後大きな研究課題となることでしょう。